

## 材木屋とエコ 環境 省エネ(第80回)

### ハナミズキとアド街ック天国

(株)コバリン 奥澤 康文

【新緑の季節】 4月8日(日)午後、大宮公園内を散策。桜も終わり葉桜の季節になった。ハナミズキも平年より約2週間早く満開になった。早く咲いたせいもあり、花が少なく貧弱で残念。5月11日(金)北海道の富良野森林組合から電話があり、ついでに桜の開花情報も確認した。富良野では、例年より早く連休明けに開花したが、寒さで有名な占冠村ではまだ蕾で、5月下旬だろうとの事。朝は5℃前後で寒く、小高い山林内ではまだ残雪があるという。日本列島も細く長いことを実感した。



本堂傍の小さな神社。葉桜とケヤキの新緑がきれい。人気  
が少なく静かで心地よい雰囲気が漂う。



つつじも満開。殆どの植物の開花が早くなり、南極・北  
極の氷が解け、地球温暖化の影響が懸念される。



公園内の日本庭園。散策には最適。この道路の右側に、  
「ハンカチノキ」が1本あったが、今年行ってみると無かつ  
た。多分、病気で枯死したのだろう。非常に残念だ。



写真はH25年4月29日撮影。「いつまでもあると思うなハ  
ナミズキ、ないと思うな…」ヒラヒラ青空に舞う白い花  
(実際はガク)を記録しておいて良かった。

春爛漫となり、大宮氷川参道も櫻、桜、檜等の新緑で満ち溢れ、吹き抜ける風に黄緑色の若葉の香りがして、心地よく気持ち安らぐ。

【ハナミズキ通り】 4月8日(日)午後。大宮第一公園から第二公園に向う住宅街の道路沿いに、約100mの並木が続く。白やピンクの花がきれい。日頃の運動不足を補うため、約2時間歩き回った。北米大陸原産の品種が日本全国に広まったようだ。大宮氷川神社付近では、例年、桜から半月遅れで開花を迎える。



今年は、開花が例年より半月早いせいかわ、どうも花も少なく、色づきも良くないように見える。



香りはしないが、空一杯に広がっている。桜もいいが、ハナミズキも日本の春の風物になってきた。

【別所沼公園】 4月21日(土)午後。風もなく静かな午後、中浦和に出かけた。浦和は、昔から文教都市として人気のある町で、比較的都心に近くて静かな住みやすい街だ。



沼の周りを、水面と水直にメタセコイアの林がきれいに並ぶ。風がないので、水面が鏡のようだ。水深1~3mで浅いが柵が低いので、子供には要注意。



のんびりと釣竿を下ろす人、メタセコイアの林内をジョギング、散策の人も多い。週末には憩いの場所になっているので、気持ちがリラックス。

「首都圏住みたい街ランキング」(SUUMO ジャーナル：2018年2月28日版)によれば、

①横浜 ②恵比寿 ③吉祥寺 ④品川 ⑤池袋 ⑥武蔵小杉 ⑦新宿 ⑧目黒 ⑨大宮 ⑩浦和。

となっている。アンケートの趣旨や取り方で変動は考えられるが、埼玉県から大宮、浦和が入ったのは意外であり、嬉しい。交通の利便性、居住環境が加味されているように感じる。

【出沒 アド街ック天国】「春うらら 奇跡の花園 群馬・館林」4月21日(土)テレビ東京、午後9～10時。当日夕方、偶然テレビ番組表で発見し、郷里でもありつい見てしまいました。門前仲町なども特集されたこともある楽しく興味深い番組です。東京から63.4km(スカイツリーの高さ634m)に位置している田園地帯にある群馬の南東はずれの人口約7万の小都市です。テレビを見ながらメモしたので、以下、特長ランキングを簡単にご紹介します。

又、この記事は、都内の某大手ホテルの役員をしている高校の後輩のN君が業務で見る機会を逸したと残念がっていた為にも書くことにしました。素朴でおいしい手打ちラーメン店の多さでは全国随一です。地域おこしの為にはいい番組だと思いました。

- ① つつじが丘公園。樹齢800年の巨木も有。今年は開花が早く4月10日開園。地元の人は「花山」と言う。東京方面からの見物客も多く、例年は4月末から連休中大渋滞。
- ② 正田醤油、日清製粉。(現皇后陛下のご実家のルーツの広い邸宅有)製粉ミュージアム。
- ③ 茂林寺(分福茶釜と大きな狸林像で有名)、尾引稲荷神社等の神社めぐり。
- ④ 茂林寺沼、多々良沼、近藤沼等5つの沼。多々良沼は白鳥が毎年約200羽飛来。
- ⑤ 芝桜の花祭り、5,283本の鯉のぼりと桜並木。
- ⑥ ブルドックソース館林工場、有名メーカーの工場が多い。
- ⑦ 小麦の産地で三大有名うどんの一つ、「花山うどん」(日本一3連覇)。
- ⑧ 女性宇宙飛行士「向井千秋」氏の出身地。向井氏が来館する子供科学館、館林美術館。
- ⑨ 慶友整形外科病院。神の手の異名を持つ先生もいる。都内から有名人や野球選手等も来院。
- ⑩ 館林城の石垣跡。徳川四天王の一人、榊原康政が1605年、城沼の淵に開園した「つつじ園」が、今では市内で一番有名な「花山」となっている。
- ⑪ 和食の店。寿しの「恵ミ」、「おぼな」。築地から新鮮な魚介を仕入れる。
- ⑫ スーパー「とりせん」。地元の手で親しみやすい。
- ⑬ 野菜の産地。きゅうり、ニガウリ等。他には、ナス、トマト類も有。
- ⑭ 庶民の味として、モツ煮、ぶっかけライス。
- ⑮ 館林高(男子校:レスリングが有名で、オリンピック2連覇の上武洋次郎)、館林女子高(全国の女子高でボクシング部があるのがここだけ)
- ⑯ お洒落なレストラン「オーシャンビューフード」。
- ⑰ 駅前温度計。猛暑(35℃以上)日数日本一。
- ⑱ 焼きそば「味之屋」。焼きそば好きが多い。
- ⑲ 川魚料理店が多い。「せきぐち」等なまず天ぶら。
- ⑳ 手打ちのラーメン、うどん店が多く、遠方より食べに来る人も多い。

故郷を離れ既に40有余年、実に感慨深いものがある。大部分は知っているが知らないこともある。夏になると館林の暑さの数字はおかしい、観測場所の周辺が変だと指摘され、ネットで叩かれテレビでもニュースとなり、「ズル林?」とも揶揄される。その為、「アメダス」(地域気象観測システム)の移転が決

定。何と驚いたことに、館林高(母校)の敷地内に設置(6月末)という。当時は物理部で天体気象観測をしていた事を想いだし懐かしく感じたので、後日見学に行くことにしている。

余談ですが、館林市は群馬、栃木、茨城、埼玉の県境にあり、北は渡良瀬川、南を利根川、東に板倉遊水地。館林高校は、市街地の西部に位置している。隣接する板倉町との合併協議中。堤防が未整備の昭和20年代迄は、台風や大雨の度に洪水が常態化していた。

所謂、前橋高校や高崎高校の様な全国レベルの高校ではありません。県の南東に位置する辺境で、昭和40年頃は私の様な貧しい兼業農家の子弟も多く、受験時の偏差値は低いですが、卒業後に各分野で活躍しているOBも約2万人以上。

敷地の広さは県内随一で、校門傍に萬葉植物園(大賀蓮)も有り。1901年(M34)に開校し、館林・邑楽の大洪水の為廃止(1912年:M45)。後、1921年(T10)に再校。まもなく100周年を迎える。少子高齢化で館林女子高と合併するかどうかはわかりませんが、世間ではその種のニュースが多いのが残念です。

【米朝首脳会談他 独り言】 6月12日、シンガポールで開催されることになった。数ヶ月前迄は、さかんに威嚇・牽制し合っていたが、うまく合意できれば色々な面でいい影響が出てくるだろう。世界史が動く瞬間であり、ニュース特集や新聞記事を見る機会が増えた。水面下では凄まじい火花が散っているだろう。しかし、今迄も何度も失敗してきた経緯があり、簡単には行かないと疑問視する向きもあるが少しでも良い方向に動いて欲しい。

毎日、家と会社との伝書鳩暮らしなので、目の前の狭い社会しかわからない。色々な報道に接する度に、世界はまるで核分裂するような複雑さで収縮・膨張しているようで不安と期待が交錯する。毎週末「西郷どん」(NHKテレビ)を好んで見ているが、僅か、百数十年前の時代は遥かに悲惨で危機的だったことを改めて知る。当時の人々の思考や行動の結果が現在の社会の基盤になっている当たり前のことを強く意識しました。

6月のFIFAワールドカップ・ロシア大会。2年後には東京五輪も迫っている。70歳、80歳でも元気で働いている人も大勢いるが、自分の定年後を思い巡らすことが増えてきた。又、長年、事務屋をやってきたので、最近では足腰の衰えを自分でも情けなく感じる。週末の散策だけでは不十分で、最近では、帰宅後毎日、「スクワット」をやることにしている。書店に行けば、「健康」と「定年後」の本が溢れる。元来、本屋や図書館は大好きなので、10年前には半日いたことも普通にあったが、今では、腰痛予防の為、30分程度で引き上げる。便利なネットやSNSの時代になったが、紙の本には強い愛着を感じる。

2018年5月13日(日)記